

今週（3月29日から4月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、3月期末の取引では一時的に無担保コールO/N加重平均レートが低下したものの、それを除けば、レートは概ね高止まりであった。新型コロナオペを活用した地銀業態の積極的な資金調達姿勢に変化は見られていない。週初29日は、3日積み要因が剥落したものの、地銀業態を中心に資金調達意欲が強く、レートは概ね横ばい圏で始まった。その後も、都銀業態が▲0.020%台の調達でとどまっているなか、地銀業態の積極的な調達姿勢は変わらず、レートは高止まりとなった。31日は期末期初の取引となったことから、加重平均レートは▲0.044%に低下した。新年度に入った4月1日には▲0.014%に上昇し、週末2日も高止まりが続いた。無担保コールO/N物の取引レートは、地銀・証券業態は▲0.080～▲0.002%の幅広いレンジで、都銀・信託業態は▲0.060～▲0.010%の出会いとなった。ターム物に関しては、4月スタートで地銀業態の資金調達ニーズが強いもののオファーが少なく、ショートターム物で▲0.010%程度の出合いが散発的に見られた。日銀当座預金残高は、年度末諸払いで520兆円台まで増加したものの、4月に入ってからは税・保険揚げ等の要因により、510兆円台後半まで減少している。

●レポ市場

今週のレポ市場は、GC T/Nは、年度末取引にあたる30日のT/N（3/31-4/1）は▲0.18～▲0.12%程度にレートが低下したものの、それ以外の日は▲0.10～▲0.075%が中心となり、狭いレンジでの取引であった。SC個別銘柄では、5年133～146、10年338～361、20年167～175、30年59～69、40年8～13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年度末で閑散なマーケットとなる中、依然として短国オペの応札額が多いことなどが意識されてか、3M物は▲0.100～▲0.095%出会いと小甘い推移となった。一方で、6M物・1Y物においては特段の出合いは見られなかった。

30日に実施された短国買入オペは、前回と同額の15,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.004%、按分落札利回較差+0.004%と、やや弱めの結果となった。

2日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.098～▲0.094%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0930%、按分落札利回▲0.0893%と、やや低調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.091%出会いと軟調な推移となった。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期末を跨ぐ週となり、幅広い業態で大型発行があったことで、比較的活況な週となった。週間の金額ベースで見ると、28,500億円程度の償還に対し、17,700億円程度の発行と大幅な償還超となった。市場残高は、3月末時点で19.6兆円程度となっており、前年同月比では1兆2,500億円程度の減少となった。市場残高が20兆円に達しなかったのは2019年11月以来である。新型コロナ感染症の影響によって企業の予防的調達姿勢が顕著であった昨年の要因が剥落し、調達意欲が減退したと考えられる。発行レートについては、日銀の適格担保銘柄は概ねマイナスでの決着となっている。発行残高が減少しているなか、在庫確保の動きから、大型銘柄であってもマイナス圏での決着が見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
3/29（月）	29,384.52	0.065	109.65	△ 0.014	△ 0.090	5,149,200
3/30（火）	29,432.70	0.085	109.98	△ 0.014	△ 0.112	5,188,300
3/31（水）	29,178.80	0.090	110.70	△ 0.044	△ 0.095	5,225,700
4/1（木）	29,388.87	0.120	110.79	△ 0.014	△ 0.091	5,199,800
4/2（金）	29,854.00	0.115	110.63	△ 0.012	△ 0.079	5,167,000

来週（4月5日から4月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/5 (月)	4月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				EURO、London祝日(Easter Monday) 2月の米製造業新規受注・出荷・在庫 3月のISM 非製造業景況指数
4/6 (火)	2月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 2月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	30Y 9,000億円 4/7発行	交付税借入 11,000億円 4/16借入		
4/7 (水)	3月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 2月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				2月の米貿易収支 2月の米消費者信用残高
4/8 (木)	2月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 2月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 3月の消費動向調査(内閣府 14:00) 3月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB6M 34,000億円 4/12発行	5Y 25,000億円 4/9発行		
4/9 (金)		TB3M 65,000億円 4/12発行	エネルギー 対策借入 8,000億円 4/20借入		3月の米生産者物価指数 2月の米卸売売上高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/5 (月)	600	▲ 8,000	▲ 7,400	国債補完	300		300	▲ 7,100	TB3M発行▲67000償還59800
4/6 (火)	2,000	3,000	5,000				0	5,000	恩給
4/7 (水)	1,000	▲ 7,000	▲ 6,000	全店共通	▲ 4,900		▲ 4,900	▲ 10,900	30Y発行▲9000
4/8 (木)	1,000	0	1,000				0	1,000	
4/9 (金)	1,000	▲ 18,000	▲ 17,000				0	▲ 17,000	5Y発行▲25000 交付税借入▲11000期日11000
週間合計	5,600	▲ 30,000	▲ 24,400	—	▲ 4,600	0	▲ 4,600	▲ 29,000	

4/5は日銀予想、4/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期間後半となり、引き続き地銀業態中心に資金調達意欲が強いことが想定される。概ね横ばい圏で高止まりすることが見込まれる。レポ市場は、GC T/Nは▲0.09～▲0.07%程度のレンジを予想する。短国市場は、8日に6M物、9日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、6日に実施が予想される短国買入オペのオフアール額にも注目したい。CP市場は、4月に入り、市場残高の回復程度が注目される。主要なイベントは、特段無い。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入